

# 三重大学医学部附属病院の電子処方箋対応と三重県での普及に向けての取り組み



## 本院の紹介

開設者：伊藤 正明  
管理者：池田 智明  
所在地：津市江戸橋二丁目174番地  
開設年月日：昭和48年10月1日  
病床数：685床（一般655／精神30）

三重大学医学部附属病院は、特定機能病院、がん診療連携拠点病院、小児がん拠点病院、がんゲノム医療拠点病院、地域災害拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院などの指定医療機関として、高度かつ全人的な医療を提供しています。

## 本院における電子処方箋対応

三重大学医学部附属病院は、**大学病院として初めて電子処方箋に対応**し、2023年4月初旬より運用を開始しています。

電子処方箋では、他医療機関で処方された薬との重複投与や併用禁忌のチェックが簡単かつ正確に行えるため、医療安全向上と業務の効率化につながると考えています。

## 三重県での電子処方箋普及に向けて

電子処方箋が真価を発揮するには、近隣の医療機関や薬局が電子処方箋に対応している必要があります。

三重大学は「**みえの未来医療会議**」を主催し、医療機関、市町村、医師会、薬剤師会等と地域医療構想で協働しています。  
同会議で**電子処方箋の普及**に向けた協議を行っていきます。

## 医療分野におけるDXの推進

三重大学は医療分野でのデジタルトランスフォーメーション(DX)を強力に推進しており、その実践として「**桑名医療DXプロジェクト**」を立ち上げ、地域連携による活動を展開しています。（次ページ）

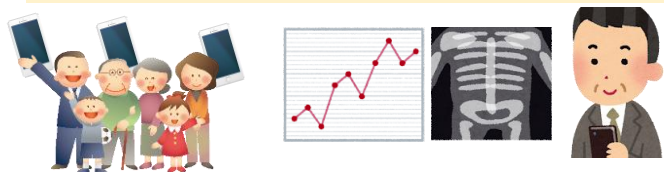
# 三重大学における医療DXの取組み ～ 地域共創展開センター桑名医療DXプロジェクトの紹介 ～

三重大学は、自治体、医療機関、医師会等関係団体、企業などと連携して、パーソナル・ヘルス・レコード(PHR)を活用したデジタルトランスフォーメーション(DX)を推進し、医療分野における患者中心の「社会との共創」を目指しています。

医療DXを推進して県民がPHRによる24時間健康把握 やAI受診推奨等を利用できる体制を整え、三重大学と県内の医療機関・薬局を結んでスマートホスピタル化します。予防医学分野においても医療DXを推進し、県民の健康寿命延伸を図ります。  
 - 三重大学ビジョン 2030より -

## 取組① PHRを地域全体で推進

- ・【実績】大学と病院協会が連携して推進  
 - 稼働中施設 1、導入中施設 3
- ・【取組】HL7-FHIRによる電子カルテとの連携
  - ・電子カルテやマイナポータルと連携したPHRにより、医療情報や画像情報を患者自身が一元的に把握し活用することが可能。
  - ・個人の健康増進に寄与する他、家族や他の医療機関との医療情報共有も容易に。



## 取組③ D to D 遠隔医療の推進

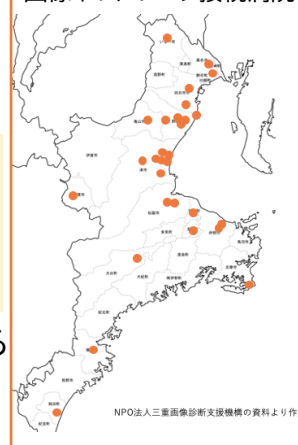
- ・【実績】遠隔AI画像診断支援
- ・【実績】内視鏡検査の遠隔支援システム開発
- ・【取組】ロボット手術の遠隔支援システム開発



## 取組② 県域全体をスマートホスピタル化

- ・【実績】県域全体の放射線画像連携
  - 津市内の11の救急医療機関を結ぶ画像ネットワーク
  - 大学病院と医師不足地域病院のPACS連携、画像共有
  - 10年以上の稼働実績あり
- ・津市の救急医療画像転送システムでは、救急輪番施設で撮影された画像が三重大学の画像サーバに送られ、読影結果が救急輪番施設にタイムリーにフィードバックされる。
- ・【取組】県域全体でHL7-FHIRによる医療情報クラウドネットワーク構築

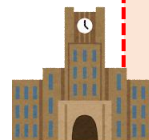
三重県内の光回線(NTT閉域専用回線)による放射線画像ネットワーク接続病院



NPO法人三重画像診断支援機構の資料より作成

### Point !

- ✓ **医療DX専任教員(教授)を配置**
- ✓ 医学系に加え、人文系や工学系などの**多分野の教員が参画**
- ✓ 重要プロジェクトとして**大学も全面的にバックアップ**



医療DXプロジェクトの情報は、↓でもご覧いただけます。  
<https://www.rcdc.mie-u.ac.jp/project-kuwana-dx/>

桑名市をフィールドに三重大学と桑名市総合医療センターが連携して左記の取組みを展開



## 取組① PHRを地域全体で推進

- 患者さん自身が医療情報を管理・利活用できることを目指して、電子カルテと連携したPHRの導入を県全域で推進しています。
- 桑名市総合医療センターでは2023年5月よりPHRの運用を開始し、三重大学医学部附属病院においても2023年中の運用開始を予定しています。また、他にも県内の多くの病院が導入を検討しています。

## 取組② 県全体をスマートホスピタル化

- 厚生労働省が進める医療データ連携に準拠し、高度の個人情報保護を実現した三重大学医学部附属病院と地域基幹病院間の地域共同クラウドPACSと紹介・逆紹介システムの構築をすすめています。
- 津市内の11医療施設を結ぶ救急画像ネットワークや、三重大学と県内遠隔地の医療施設を結ぶ画像診断ネットワークは、10年以上稼働してきた実績があります。

## 取組③ D to D 遠隔医療の推進

- 遠隔地に赴任した若手医師を遠隔地からベテラン医師がサポートする内視鏡検査やロボット手術のシステム開発に取り組んでいます。
- 胸部X線写真やCT画像に対する人工知能(AI)による画像診断支援の提供に取り組んでいます。